

中央区特色ある区づくり事業

「超高齢地域支え合いモデル事業」

(平成24年度～平成25年度事業)

目的

中央区では一部の地域では高齢化率が30%を超える地域もある中、単身高齢者が増加している。このような社会情勢の変化に伴いかつては三世代家族の同居によって家族が高齢者の生活を支えたが、家族以外の担い手の創出が不可欠となっていることから、高齢者に身近な存在(=地域住民)を核とした支え合いの関係づくりが急務となっている。

地域住民と企業体が一体となって高齢者の見守りや生活支援等に取り組む地域づくりを行う団体に対して支援を行うことにより、高齢者の社会的孤立を防ぎ、地域で安心して生活できるまちづくりを進める。

効果

- ・社会的に孤立している単身高齢者等の減少
- ・地域住民同士の繋がりが深まることによるコミュニティの基盤強化

内容

高齢化率30%以上の地域2箇所において、地域自らが取り組む見守り、食料品の移動販売等の生活支援、地域交流、高齢者への各種情報提供などの地域づくりに対し支援を行う。

地域住民が中心となって単身高齢者などの情報収集や把握を行い、様々な生活支援のメニューを用意し、個々に合ったサービスを利用してもらうことにより、地域住民同士が繋がりを、高齢者の社会的孤立を防ぐ。

サービスの提供は自治会、民生委員、新聞販売店、商店・事業所、地区社協などが一体となって行う。

例

- ・見守りが必要と思われる人への情報提供
- ・高齢者の買い物・通院・ゴミ出し等生活支援
- ・地域住民による高齢者の見守り
- ・高齢者への各種制度やサービスの説明
- ・地域交流ができるサロンの開設 など